

対談『ESDの実践』

東京・関西勝山会から 他

ESDの実践

(持続可能な開発のための教育…)

Education for Sustainable Development)

ふるさと勝山への愛着と誇りを育むために



第一部

三室小学校(遅羽地区)の取り組み

～4年生の皆さんからの報告～

勝山市内の公立小学校九校と中学校三校は、ESD推進に積極的に取り組んでいます。各学校では、環境教育を中心に様々な活動が行われています。第一部では三室小学校四年生の皆さんに活動を報告してもらいました。

さんの種類のホタルがいること。福井県内で見られる十種類のホタルすべてを勝山市内で見ることができます。二つ目は勝山市は福井県内で二位になるくらいゲンジボタルが多いこと。三つ目はヒメボタルがいること。ヒメボタルが見られる県内十三カ所のうち六カ所が勝山にあるそうです。

◆ホタルがたくさんいる勝山のまちを守るためにお願いしたいこと

①川に洗剤などを流さない
②山際に暗い場所をつくる(明るいとはホタル同士で交信ができなくなる。木を植えたり、ライトの種類を変えたりしてほしい。)

外来種の駆除活動

セイタカアワダチソウは背丈が二m以上になることもある大きな植物で、元々日本にはなかった植物です。観賞用に日本に持ち込まれましたが、管理できなくなったため、どんどん増えています。今では増えすぎてススキが生えなくなった場所もあるそうです。セイタカアワダチソウは、道沿い、川沿い、空き地など人間が管理しなくなった場所にたくさん生えていることがわかりました。そこで地域の方や家の人と一緒に駆除活動を行いました。

◆セイタカアワダチソウを増やさないためのポイント

①根っこから抜くこと

②こまめに刈り取りをする

川の調査

遅羽町の川にはどんな生き物がいるのか調べました。調査すると、たくさんさんの生き物を見つけたことができました。生き物の種類から、遅羽の川はきれいな水と少し汚い水の間であることがわかりました。また、家の人にアンケートに答えてもらいました。五十二%の人が川に興味が無いと答えました。興味がない理由は、川が汚いから、水が少ないうえ、魚などの生き物が減ったから、川がコンクリートになって子どもがとろろと変わってしまったからなどがありました。一方、興味がある人の理由を聞くと、ホタルがいるから、生き物がいるから、遊べる川になってほしいからという意見がありました。

◆川を守るためのお願い

①川に洗剤やゴミを流さない
②川沿いに外来種を見つけたら駆除する
③川をコンクリートにしない
④川にもっと興味を持つ

まとめ

二年間の活動を通して、勝山が大好きになり、この風景を大切にしたいと思いました。ですが、いろいろな問題も見つかりました。勝山の美しい風景は当たり前ではありません。今のままでは失われていくものもあるかもしれません。私たちはこの風景を未来につなげていきます。しかし、子ども力だけではできません。遅羽町の大人の皆さんは私たちの呼びかけに応じてくださいました。私たちと一緒に行動してくれる大人の人がいることが遅羽町の魅力の一つです。大人の協力があればきっとできます。よろしくお願いします。

赤トンボ調査

ヤゴの抜け殻集めと赤トンボのマーキング活動をしています。ヤゴの抜け殻集めの調査では赤トンボは一mあたりで二・四匹が羽化するという結果が出ました。勝山市の全ての田んぼから羽化すると四千百万匹ものトンボが羽化することになります。マーキング調査では三室小学校は千三百四十四匹マーキングしまし

ホタル調査

ゲンジボタルについて学ぶために福井工業大学の草桶先生の研究室を訪問しました。草桶先生に教えていただいたことで、心に残ったことが三つあります。一つ目は勝山市にはたく

①田んぼに使う農業

②中干しの時期を遅くする
③田んぼに水を入れる

④田んぼに使う農業



【出席者】

三室小学校四年

小池竣也、齋藤優那、山内芽依

小池真生、齋藤遥奈

三室小学校教諭 竹原 奏恵

村岡小学校教諭 小林 一与

北郷小学校教諭 西行 智

ふるさとルネッサンス委員会

委員 荒井由泰、笠川小末

森本陽子、阿部光郎

四谷由起夫、荒尾るみ子

(順不同・敬省略)

第一部では、赤とんぼ調査や川の生物調査・観察を行っている三室小学校児童四年生の皆さんにお話を伺いました。

荒井：田んぼに農薬をまくと赤とんぼはどうなるのですか。

児童：赤とんぼの幼虫が死んでしまいます。

四谷：我々はオニヤンマのヤゴが

かえるところはよく見ます。赤とんぼがヤゴから出るところを見たことがありますか。

児童：あります。朝、田んぼに行くつと羽化しています。

森本：毎日観察したんですか。

児童：当番のときはだいたい毎日観察しています。

笠川：赤とんぼはいるのが普通だと思っていました。普通なので、それに目を向けることがありませんでしたよね。

荒尾：私はホタルがたくさんいる浄土寺川の近くに住んでいます。気をつけるとういという中に、電球を変えるという意見がありました。どのような電球にするとういのですか。

児童：例えばLED電球にしたらかバーをつけるとういのです。

荒尾：普通の電球より自然の光に近い方がいいとういことですね。

荒井：ホタルのためにはなるべく電球が無い方がよさそうですね。



ふるさとルネッサンス委員会 委員 森本 陽子

笠川：ヒメボタルは、昔たくさん飛んでいるのを見たことあります。最近はずいぶん少なくなりました。最近はどうですか。私が住んでいる北郷町もホタルが多いところ。北郷町の岩屋つというところは、たくさんホタルがいます。

森本：セイタカアワダチソウの根つは深くないんですか。

児童：深いんです。

森本：深いっていつことは、引っ張るとちぎれるでしょ。ちぎれると根つが残りますよね。それはど

うにかして取るんですか。

児童：刈り取りをし続けていれなくなります。セイタカアワダチソウは土の中で根つがつかっているから、周りもとらないういけません。

四谷：セイタカアワダチソウの駆除活動は他の学校もやっていますよね。あの草は毒素のようなもので、他の草を生えさせないような性質を持っているんです。

小林：他の草を浸食してしまうので、セイタカアワダチソウしか生えなくなります。しかし、上の方を切り取ると、下の方はそんなに強くないので、上の方を刈っていけば、その根が枯れてくるだろう。とにかく上を切つて、根つを少しでもとつていけば、そのうち周りに植物が生えてきて、セイタカアワダチソウが無くなってくるだろうとうい感じで、とにかく土から出ている部分を駆除していうとういことで、子どもたちも結構こまめに刈り取りをやっています。セイタカアワダチソウは駆除するべき外来種として指定されています。県や市でも取り組んでいますし、いろいろなところで大人の方も駆除活動をやつてくださっています。

阿部：川をもつときれいにする方法、例えば、学校でゴミ拾いに取り組んでいるんですか。



ふるさとルネッサンス委員会 委員 四谷 由起夫

児童：流れてきたら拾ったりします。昔のサイダーの瓶が流れ

てきたこともあります。

荒井：川がコンクリートになるとなぜだめなんだろう。

児童：ホタルの幼虫が上に上がつて来れません。

荒井：以前より勝山のことをたくさん勉強してきたと思うんだけど、勝山という場所に対する印象とか考え方とかは変化しましたか。

児童：外来種の生き物や植物がいると嫌になります。

児童：家の前の川がコンクリートにされてから魚がいなくなつたので、遊ぶことがなくなりました。

児童：家の近くの川にゴミがたくさんあると、近くにいてもあまり楽しくないもので、ゴミを捨てるのをやめてほしいと思います。

児童：五歳くらいのときは、家の側の川に大きな魚が一年に一回くらいすごい音をたてながら泳いでくるのがあって、網ですくおうとすると、網が破れるくらい大きな魚だったんですけれど、最近コンクリートになつたら、その魚が来なくなつて、小さい魚しか来ないので、また大きな魚が見たいです。

児童：コンクリートにされている川と、されていない川を見比べると、コンクリートにされている川にはほとんどいないけど、コンクリートにされていない川にはたくさんいるので、コンクリートにされている川には、魚がいないので、コンクリートにされていない川には、魚がいます。

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

竹原：私たちはいろいろ調べていますが、なぜコンクリートが多いのかなという疑問が残っている状態です。その理由について教えてください。

笠川：管理が簡単だし、コンクリートにして蓋すると道幅が広くなるでしょ。水路に蓋すれば、車や人が水路に落ちて危険な目に遭わなくなります。でも生き物は住めなくなりますよね。

荒井：大人は、便利な方法やお金がかからない方法を優先してきました。しかし、皆さんの声にあるように、その考え方を直さないといけないことになってきています。積極的に元の川に戻すとういこともひとつの方向性かもしれません。

小林：川をコンクリートにした状態でも、土が溜まつて、普通の川と同じようになることがありますが。つまり、そこにホタルが住むようになることもあります。どういう川がコンクリートでもいいのかとういことを調査してもらおうとういのかと思います。

森本：活動していて、すごく楽しかったことを教えてください。

児童：魚のいる川は、魚を捕まえてりして遊べるので楽しいです。

児童：たまにトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

児童：セイタカアワダチソウの駆除活動で少ない人数でやるとあまり楽しくないけど、地域の人がたくさんいると話したり

児童：たまたまトンボのヤゴがかえるときを見ることがあります。

して手も進むので、それが楽しかったです。

児童…セイタカアワダチソウを駆除して、きれいになったところを見るとすっきりしたなと思って、楽しいなと思います。

四谷…川で遊んだことはあります。

児童…あります。

四谷…九頭竜川まで行くと、コンクリートの川じゃないから、いろいろな生き物がいると思います。私たちが皆さんくらいの時は、学校にプールがありませんでしたから、川で泳いでいたんです。水の中に落ちると、虫とか魚とか見ることができました。しかし、今は危険だから川で泳いではだめだということになっています。私自身は皆さんに川に遊びにいった、泳いだり、川の生き物を見つたりしてほしいなと思います。一番大事なものは安全面です。よね。できたら大人の人と一緒に安全に注意して川で遊んでほしいなと思います。

(第二部)

第二部では、村岡小学校の小林一与先生、北郷小学校の西行智先生にESD推進の取り組みについてお話を伺いました。

■北郷小学校のESD活動について



北郷小学校
教諭
西 行 智

西行…私が三月まで担任していた六年生の子どものたちの活動について報告します。彼らは三年生の時に北郷小学校の周辺の川にバイカモという水草がたくさ

ん生息しているという情報を知りました。ちょうど彼らは授業で川の生物を調査するということをやっていた、バイカモがだんだん少なくなってきたというところで、自分たちの住んでいる地域に生息しているきれいな植物を守っているという活動に取り組んできました。バイカモは、福井県では準絶滅危惧種に指定されている植物で、積極的に保護していく必要があるという植物です。私たちはバイカモがどんな花なのか細かく観察するようにしました。とてもきれいな澄んだ緑色をしていて、白くてかわいい花が咲きます。しかし、川にゴミが散らばっていたり、外来種であるコカナダモが川に放置されていると、バイカモに覆い被さって、だんだん日が当たらなくなってしまう。バイカモが死んでいってしまうので、ゴミを拾って川をきれいにすると同時に外来種の駆除活動も行ってきました。また、北郷地区の方にアンケートをとって、川にゴミが捨てられているのを知っているか調査したり、チラシを配ったり、学校の周辺に看板を立てたりして、バイカモを大切にしよう、川をきれいにしようと呼びかける活動も行ってきました。FMRラジオでバイカモを知ってもらったための訴えがけも行いました。親もPTAの行事で川掃除に取り組んでくれまして、親子行事としてバイカモを守る活動もやってきました。こうした活動を通して、バイカモを守ろうという意識が徐々に高まったと感じています。五年生の時には、なぜバイカモがこういふところに住

んでいるのか、データをとって調査しました。北郷小学校の前の川や小さな水路は、地下水ほどではありませんが、それに近い、きれいな川だというデータが出ました。外来種のコカナダモも繁殖していて、五年生の時に駆除活動をした際には、軽トラ十台分くらいのコカナダモを駆除しました。ゴミも脅威ですが、外来種の繁殖力も脅威です。元々日本に生息していた固有種が減っていくように感じました。粘り強くやっていかなければならないのかなと。六年生の時は勝山北部中学校の生徒と協力して外来種のオオキソウの駆除活動を二回にわたりやってきました。三年生から六年生までの四年間の活動で、環境を守るという意識は非常に高まったのではないかなと感じています。自分自身も子どもたちと一緒に学んできました。

■村岡小学校のESD活動について



村岡小学校
教諭
小 林 一 与

小林…村岡小学校では、教科全般を通してESDを推進できるのではないかとということで、「持続可能な発展のための教育」というふうに言っていますが、子どもに対しては意識をさせずに、将来につながる活動だというふうな感じでESD活動を取り入れています。一・一・二という学習だけでなく、自分の生

涯を通して使える力を身につけられるようにつなげていこうという意識です。実際に今までどんな先生方もやってきたことで、それを教師自身が意識を持って、全てにつなげていこうじゃないかということがESDだと言われています。村岡小学校では、環境教育の切り口からESDに取り組んでいます。環境を守るといふことを口だけで言っているのではなくて、小さいときから、環境は大事なんだよ、周りに素晴らしいものがあるんだよと教えると同時に、これをどのように守っていくのかを自分で考える姿勢をとれるように教育を行っています。具体的には、一年生は畑仕事をしています。農作物をつくって、土に親しむ。できた農作物はかりで計って、ひとり何グラムずつ持つて帰っていいとか、自然の中で算数教育とか、それに関する作文を書くなら国語教育としてつなげていく形をとっています。三年生では、今年度新しく「村岡山博物館」というものを村岡町文化祭で発表しました。小学校の近くに村岡山という山があるんですが、子どもたちは村岡山に登ったことはありますが、地域の方がどのように村岡山に親しんできたかというふうなことを知らないんです。それで、専門家や地元の方を呼んで話を聞いて、どのように山ができたのか、山にはどんな植物が生えているのか、どんな動物がいるのか、子どもたちが実際に自分の目で見て確かめながら博物館の資料のような形でいろいろな資料を集めました。そして、調べたことを「村岡山博

物館」として地域の文化祭で地域の皆さんに発表したんです。これから村岡山をどのようにして守っていったらいいのか、みんなに知らせたいのか、もっと楽しい使い方があってはいないかというような提案をして、来年度の活動につなげていこうと考えています。四年生では、家庭を離れて公民館で宿泊通学を地区でやるようになっていきます。その中で地区の人たちと楽しもう、つながりを持とうという形でやっています。地区の人を知る、自分を知っていたく、そして地区の人たちが子どもを守っている、こういう人たちの中で私たちは生活をしているんだということを知の意味でも、これもESDで、そういうことを続けていくというのは非常に大事なことであると思っています。五年生では稲作とミチノクフクジュソウの保全活動をやっています。稲作はJAさんの力を借りて、畑を貸していただき、稲作の体験をやっているだけなんです。実際に子どもたちは家庭ではあまり稲作に関わっていないようなので、泥だらけになって田植えをしてみたり、稲の成長を見たり、脱穀の状態を見たり、そういう経験を通して、近代的な生活を求めるだけでなく、自然の中で働くという生活の素晴らしさに気づき始めています。ミチノクフクジュソウの保全活動に関しては、絶滅危惧種であるミチノクフクジュソウがたくさん生息している北谷町で保全活動をしています。小原ECOプロジェクトの方が声をかけてくださった

ことが活動を始めるきっかけになりました。下草刈りなどの保全活動をしていく中で、心ない人たちの採集で花が咲かなくなってしまうということ、それほどミチノクフクジュソウは弱い植物なんだということが子どもたちにもわかってきました。ですから、きれいな花が咲いていても採ろうとしないんですね。見ているだけなんです。六年生になると、科学的にこのミチノクフクジュソウは何度くらい温度で花が開くんだろうとか、どうやって受粉しているんだろうとか、そういったことを学習しています。このようにして、村岡小学校では、環境教育という側面からいろいろな教科、教育に広げていく形でESDに取り組んでいます。ESDの根本的な目的は、自ら考えて行動できる子どもの育成ですので、大人が一方的にこれをしましように言うのではなく、いろいろな人が関わってくださって、いろいろな知恵を子どもに与えてくださって、いろいろな方の力を借りながらESDを推進していくことがいいのではないかなと考えています。

阿部…西行先生、小林先生、ありがとうございます。勝山市すべての学校でESDに関するいろいろな取り組みを行っているんですか。

小林…皆さんがESDを意識しているか、していないかはわかりませんが、今行っている取り組みすべてが、その学校独自でやっていることですので、それは全てESDに関わることだと思います。

荒尾…村岡小学校は村岡町文化祭で発表したとおっしゃっていますが、北郷小学校も、児童が地域の人や保護者の前で発表する場はあるのですか。



ふるさとルネッサンス
委員会 委員
荒尾 るみ子

西行…十一月半ばに「実りの学習発表会」というものをやって、各学年が取り組んできた内容を、お客さんと呼んで発表しています。おうちの人も知られていると思います。ずっとこれを継続してやっています。

荒井…マスコミに情報発信して、市民に知ってもらうのはESDに取り組む中で重要な手法の一つです。学校によってはそれを行うか行わないか意識が違っていると聞いています。

小林…村岡小学校では、その点は今後の課題かなと考えています。自分たちの活動を学校だけに載せても、村岡地区だけにしか発信できません。勝山市全域に発信するにはどうしたらよいか。情報発信の方法も子どもたちと一緒に考え、いろいろな意見を試しながら取り組んでいることと思っています。

森本…活動をされて、地域の大人の方たちはどれくらい意識が変わったと感じていますか。

小林…村岡小学校の保護者の方に関しては、ミチノクフクジュソウを通して植物に対する考え方が変わったかなと思いますし、赤トンボの活動を始めて、子どもが田んぼに入っているのもあまり怒らなくなったなと感じています。

ます。かつては田んぼに入るとすぐ怒られる状況だったと思います。赤トンボ調査は勝山市全体に広まりましたからね。それで大人も子どもも自然に親しみやすくなってきましたね。

西行…北郷小学校では、子どもたちの活動が地区にも広がって、地域の方が川の掃除をしてくださるようになりました。学校から発信して、地域にも広がっているなと感じています。

小林…村岡小学校で四年間ESD推進に関わってきた、感じたことがあります。自分一人ががんばって大人のの人に訴えても、あんまり広がらなかったんですが、子どもと一緒に活動し始めて、すぐに訴えたいことが広まるようになったんです。子どもが発信するとすぐに広まって大人が動きます。大人が動けば、それがまた子どもにつながるんです。子どもが何かしようという時に大人がそれに協力しようという動けば、それがまた子どもにつながるります。

荒井…先日、左義長まつりがありまして、市外からたくさんの方がおいでになりました。その方々の感想を聞くと、子どものやらされていない笑顔、子どもが自分で楽しんでいる笑顔がとても素晴らしいとおっしゃっていました。子どもたちのやられていない笑顔を見ると感動するんです。

荒尾…先ほど三室小学校の子どもたちが言っていた、「未来へこの景色をつなぐ」という言葉がとても印象深く、自分の関わりは小さいことなんですけれども、先生方をはじめ、学校や地

域の皆さんが力を入れてくださっていることが、そのようには見えないところでも、蒔いた種が生えてくるという感じがしています。市民にどうやって広めていくかという話がありましたが、勝山市の中で少しずつ、つながってきているのかなと感じています。

阿部…私の孫は成器西小学校にいますが、環境学習の話はあまり聞きませんね。



ふるさとルネッサンス
委員会 委員
阿部 光郎

小林…成器西小学校は、環境教育というより英語教育に力を入れていますね。校舎内のいろいろなところに英語のポスターを貼ったりしています。それもESDです。ESDに関しては、決まった教科でこれをしなればいけないということはないんです。英語でポスターをつくってみよう、学校紹介を英語で書こう、それもESDなんです。

阿部…ESDは環境教育だけではないんですね。

荒井…お祭りとか、地域とのコミュニケーションもESDですよ。

小林…成器西小学校が取り組んでいる独自の活動には、英語教育の他に左義長まつりもありますよ。

荒尾…成器西小学校では左義長まつりも結構重要なテーマですよ。体育館に櫓を建てたり、学校の中で作り物や短冊をつくって飾ったりします。

荒井…地域の魅力を発見するという点で、まさに赤トンボがいるということとはわかりやすかったと思います。これが火付け役になって、これまで普通だと思われていた赤トンボの存在という勝山市の貴重な魅力の一つが市内に広まったことは事実です。やっぱり地区の中だけでなく、市民の皆さんにも届くようにするにはどうしたらよいか、ぜひとも考え、実践していただきたい。自分の子どもが学校に行っているPTAで関わっているとかそういう状況だったら知ることができますが、私たちは、先生の話を聞いたり、新聞で記事を読むことでしか情報が得られないので。

森本…活動の経過の中に参加するのではなくて、できあがったものを紹介してもらっただけです。



ふるさとルネッサンス
委員会 委員
森本 陽子

荒井…ESDの取り組みの中では、どのように皆さんに伝えるかということも大切です。勝山市が発信地となっていて、ESDを福井県全体に広めようという動きもあります。ESDを推進している、今後も勝山に住み続けたいという人間をたくさん育ててほしいなと思います。

小林…ずっと勝山市に住み続けるためには、勝山市に住む自分に誇りを持つことが大事なのかなと思います。





東京勝山会の近況について

東京勝山会 事務局 山 岸 紘 憲

平成26年10月18日に東京勝山会の総会・懇親会を開催しました。

地元勝山から山岸市長、倉田市議会議長、荒井商工会会頭、松村前参議院議員ほか3名の参加を頂き、福井県東京事務所よりも中谷所長とほか2名に参加して頂きました。

例年と変わり土曜日の昼に成りましたが、早めの連絡が欲しかったとの意見もありましたが何とか開催することが出来ました。



当日は勝山市及び福井県のふるさと納税が多いと言う事でNHKよりテレビの取材が入りました。約1時間半の取材でしたが放映は2～3分

でした。

次回は27年10月11日の日曜日の昼に開催予定です、盛会になればと期待しています。

連絡のハガキを希望の方は事務局まで

＊(TEL:090-5520-7352)

平成27年2月9日勝山市よりホテルニューオオタニで行われた、「『美し国越前』あわら・勝山フェア」の招待があり参加させて頂きました。

山岸市長のプレゼンが勝山の魅力を隈なく紹介され、故郷を離れて50年近くなる者にとっては非常に良かったです。後半の左義長囃子も昔食べた食材も懐かしかった、今後も「越前」を関東地区に売り込んで下さい。東京勝山会会員も協力を惜しみません。



近 況 報 告

関西勝山会 副会長 松 下 一 栄

第88回となる関西勝山会の総会及び懇親会は、私の10年振りの司会で大阪市都島区の太閤園にて昨年の11月9日に開催されました。

今回は、ご来賓と会員で107名と前回より5名程多く参加され盛大に行われました。勝山市長より地元のアスリートの方達の活躍等近況報告があり、又ご来賓



方々の貴重なお話をいただき、何か故里に戻ったような気分になりました。

そして、今回は我が近藤会長の発案で勝山物産展を、ゆめ

お一れ支配人山本様、店長の寺澤様のご協力で懐かしい品々を出品されて大変好評でした。

又今回も前回同様、勝高OB会長阿部光郎様、副会長の山岸登美子様も出席され、関西勝高会存続へ励ましていただきました。毎年一本義の名酒もいただきました。大変おいしくいただきました。ありがとうございました。

皆様がお帰りのあとは私はいつも淋しさを覚えます。ふるさとっていいなあ。でしめくります。



ふるさと納税制度で、あなたもぜひ勝山市に応援を!!

このふるさと納税制度は、ふるさとを応援したいという方々の想いを実現するため、地方公共団体に対する寄付金の額に応じ、所得税と個人住民税が軽減されるものです。また、寄付先は、出身地に限らず自由に選べ、好きな地域を応援できます。

ふるさと納税による寄付金は税制上の優遇措置が受けられます。

- 勝山市へ寄付していただいた金額が個人住民税と所得税から控除されます。
- 控除される税額の算出方法は以下のとおりです。

① 所得税の控除額 (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × 所得税率

② 個人住民税の控除額 下記のア+イの合計額

ア (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × 10%

※年間寄付金額の合計は総所得金額の30%が上限です。

イ (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × (90% - 所得税率)

※イの控除額の上限は、個人住民税所得割額の10%が上限です。

※詳しくは、下記またはお住まいの市区町村住民税担当課までお問い合わせください。

※税額控除を受けるには、確定申告または住民税の申告が必要です。

ふるさと納税者への特産品送付事業を行っています



※写真はイメージです

いつも勝山市に対し、ふるさと納税による応援をいただきありがとうございます。ふるさと納税による御寄付をいただいた場合には、金額に応じて勝山市の食の特産品を詰め合わせた『勝山組曲』をお送りしています。

※ 10,000円以上20,000円未満の場合…
『勝山組曲』1便 (5,000円相当)

※ 20,000円以上の場合…
『勝山組曲』2便 (10,000円相当)

※『勝山組曲』の送付はその時の旬の特産物を詰め合わせでお送りするため、ふるさと納税をいただいてからお送りするまでお時間がかかる場合がございます。何卒御了承くださいますようお願いいたします。

寄付のお申込方法

勝山市へご寄付をいただける方は、下記連絡先(勝山市役所未来創造課)までご連絡をお願いいたします。折り返し郵便振替用紙を送付させていただきますので必要事項をご記入の上、お近くの郵便局よりお振込みください。

詳しくは、<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/> の、「ふるさと納税」をご覧ください。

たくさんの応援をありがとうございます

ふるさと納税 129件 約1,029万円の寄付 (H26.3月~H27.2月受付分)

昨年3月から今年2月までに、全国各地から「ふるさと納税」による寄付が129件あり、その総額は1,029万5,000円でした。なお、寄付をいただいた方々は、下記のとおりです。

皆さまからいただいた寄付金は、新体育館建設、白山平泉寺整備、ジオパーク関連、エコ環境都市を目指した事業、子育て・高齢者福祉関連など、平成27年度における勝山市の幅広い分野に活用させていただきます。

これからも、勝山市に対してふるさと納税などによる温かな応援を、よろしく願います。

木 脇 みどり 様 (島根県)	50,000円	田 村 幸 代 様 (大阪府)	30,000円	奥 村 与志夫 様 (大阪府)	100,000円
曾 倉 市 栄 様 (勝山市)	お名前のみ公表	中 尾 彬 様 (東京都)	お名前のみ公表	中 下 正 巳 様 (奈良県)	お名前のみ公表
鈴 木 信 子 様 (茨城県)	10,000円	血 澤 康 孝 様 (東京都)	お名前のみ公表	宇 野 文 男 様 (三重県)	50,000円
川 村 賢 二 様 (福井市)	お名前のみ公表	血 澤 朝 子 様 (東京都)	お名前のみ公表	酒 井 陽 一 様 (滋賀県)	お名前のみ公表
松 下 つや子 様 (大阪府)	お名前のみ公表	太 田 諒 様 (福井市)	20,000円	鳥 山 昌 則 様 (東京都)	20,000円
酒 井 直 代 様 (神奈川県)	お名前のみ公表	佛 豊 栄 観 光 様 (勝山市)	1,000,000円	山 内 高 嘉 様 (東京都)	50,000円
大竹口 明 良 様 (神奈川県)	お名前のみ公表	山 口 正 孝 様 (愛知県)	500,000円	細 野 治 様 (群馬県)	200,000円
山 岸 幸 江 様 (東京都)	100,000円	浦 井 稔 様 (茨城県)	10,000円	畑 正 高 様 (京都府)	お名前のみ公表
森 内 俊 司 様 (神奈川県)	お名前のみ公表	佐 野 幸 男 様 (東京都)	50,000円	中 道 迪 夫 様 (大阪府)	20,000円
木 幡 明 雄 様 (福島県)	20,000円	高 井 征 夫 様 (奈良県)	50,000円	鳥 山 悟 様 (神奈川県)	お名前のみ公表
鈴木剛志・駿貴 様 (福島県)	20,000円	元 木 照 夫 様 (兵庫県)	20,000円	森 瀬 博 信 様 (東京都)	400,000円
小 池 弘 様 (大阪府)	お名前のみ公表	元 木 康 人 様 (兵庫県)	20,000円	澤 田 佳 憲 様 (東京都)	お名前のみ公表
織 田 市太郎 様 (福岡県)	10,000円	亀 井 怜 子 様 (岐阜県)	10,000円	大 平 純 平 様 (東京都)	10,000円
近 藤 義 親 様 (大阪府)	100,000円	中 村 文 美 様 (愛知県)	お名前のみ公表	湯 屋 基 生 様 (神奈川県)	600,000円
堀 正 子 様 (京都府)	10,000円	石 井 五十示 様 (京都府)	お名前のみ公表	城 山 雅 一 様 (埼玉県)	10,000円
松 山 克 彦 様 (東京都)	お名前のみ公表	西 野 隆 様 (石川県)	300,000円	森 田 さだを 様 (愛知県)	お名前のみ公表
多 田 三 郎 様 (大阪府)	10,000円	片 山 由利子 様 (大阪府)	お名前のみ公表	山 一 食 品 (株) 様 (勝山市)	1,000,000円
牧 下 昭 夫 様 (茨城県)	20,000円	国 村 守 様 (石川県)	30,000円	加 藤 丈 晴 様 (愛知県)	20,000円
安 田 修 蔵 様 (兵庫県)	20,000円	金 森 茂 治 様 (群馬県)	100,000円	建国記念奉祝者御一同 様 (勝山市)	50,000円
藤 本 祐 子 様 (大阪府)	お名前のみ公表	金 森 恵美子 様 (群馬県)	お名前のみ公表	平 柳 康 夫 様 (千葉県)	10,000円

※県の共同窓口を通じた寄付を含みます

※お名前の公表を承諾された方のみ掲載しています。

(上段から受付順に掲載)

ふるさとルネッサンス委員

委 員 長	丸 屋 仁 志	//	森 本 陽 子	//	荒 尾 るみ子
委 員	荒 井 由 泰	//	阿 部 光 郎		(順不同・敬称略)
委 員	笠 川 小 末	//	四 谷 由起夫		

発行/ふるさとルネッサンス委員会 (事務局) 勝山市企画財政部未来創造課
〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1 TEL.0779-88-1115 FAX.0779-88-1119
e-mail:rune@city.katsuyama.lg.jp 勝山市ホームページ:<http://www.city.katsuyama.fukui.jp>

ゆっくりのんびり観光にきませんか?

